

# 礼拝プログラム

2017年1月29日

司会: 福島兄 奏楽: 西井姉 通訳: シーラ姉

前奏 Prelude

賛美 Hymn

使徒信条 \* Apostle's Creed

牧会祈禱 Pastoral Prayer

感謝献金 Offering

メッセージ Sermon

『アロン: “いい人” が抱えた問題』

“Aaron: “Good man” is facing problem.

賛美 Hymn

頌栄 Doxology

祝禱 \* Benediction

\*印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のままで結構です。礼拝メッセージは英語に訳されます。必要な機器を会堂入口にてお求めください。Please feel free to remain seated or sit down when the congregation is asked to stand. The sermon will be translated from Japanese to English. You can pick up a translator device at the entrance of sanctuary.

アッシャー: ホッグ姉、イノサント姉

グリーター: 中馬姉、スカーレット姉

ナーサリー: ホッグ姉、プロクター姉

チルドレンチャーチ: 大倉姉、仰兄

## 来週、5日の礼拝

司会: 井上兄 奏楽: 大倉姉 通訳: 大倉姉

メッセージ: 「バラム: 神のサインを見逃さない」

賛美: LP116、新聖歌339

アッシャー: ホッグ姉、イノサント姉

グリーター: 本多姉、スカーレット姉

ナーサリー: 本多姉、スタンクワ姉

チルドレンチャーチ: 西井姉、川久姉

## おしらせ

本日の礼拝後の予定  
コーヒアワー、係り会、理事会

■今日の礼拝ようこそいらっしゃいました。心より歓迎します。今週も皆さんの上に主の祝福が豊かにありますように！

■今日は礼拝後に係り会がもたれます。教会のミニストリーがよりよいものになるように話し合ひましょう。礼拝・集会(西井姉)、伝道・宣教(スコット姉)、総務(ボウト兄)、教育(川久姉)。

■本多牧師、大倉牧師は明日から木曜日まで北加でもたれる牧師リトリートに参加します。このために水曜集会、木曜集会はおやすみです。

■来週はスープランチが用意されます。どなたもお楽しみください。

■2月25日(土)、午前10時から午後3時までサンタアナのウィンターズバーグ長老教会で日本人によるStand Women's Conference がもたれます。今年のテーマは「お母さん、私を見て、見て！」で、午後「日本女性と偶像礼拝」となっています。興味のある方は八尋ホールにサインアップしてください。チャイルドケアもあります。

■今年の修養会は7月4日(火)から7日(金)までサンタバーバラのウエストモントカレッジでもたれます。今年のテーマは「こおんなな生き方あったのか！」で、新しい試みとして午前は『境界線』の翻訳者である中村佐知氏の実践的なセミナーがもたれ、そのセミナーに連動して夜にはホノルル教会の関真士師が聖会メッセージを取り次いでください。今から予定に入れましょう。

## 今週の予定

30日(月) - 2日(木) 牧師リトリート

4日(土) 賛美チーム練習 10am -

5日(日) スープランチ、ユース

## 沈黙

『わたしには、ギリシヤ人にも未開の人にも、賢い者にも無知な者にも、果すべき責任がある』

(ローマ1章14節)。

遠藤周作の小説「沈黙」を原作とした映画「サイレンス」を観てきました。この映画には賛否両論がありますが、私はこの映画を観ながら、作者、遠藤周作の苦悩ということを考えました。

私はサンディエゴ日本人教会の日本語部牧師をしています。これだけ「日本」の肩書をぶら下げた牧師なのですから、私の伝道の第一の対象は日本人ということになります(もちろん、それは日本人に限らず、全ての人種、民族です)。ということは私にはいつも「日本人とキリスト教」について考えなければならない責任があります。

既に私達が知っているように日本人は世界でも福音が伝わっていない民族の一つとして数えられています。耳にタコができるほどに聞かされているのは、日本のクリスチャンは人口のパーセント未満ということです。

映画の中では「日本という沼地ではキリスト教は実らないのだ」というセリフが出てきます。この言葉は私にとって、とてもチャレンジングな言葉で、このテーマに生涯、取り組んでいかなければならないとあらためて思われました。

遠藤氏は自分が寝ても覚めても考え悩んでいたこと、すなわち「日本人である自分とキリスト教」ということについて、この「沈黙」という作品にその心を込めたのではないかと思います。映画を観終わり、遠藤文学はまだ未完なのであって、氏は私達に大切な宿題を残していかれたのだとチャレンジを受けました。